

# ペレニアルライグラスを利用した新たな試み

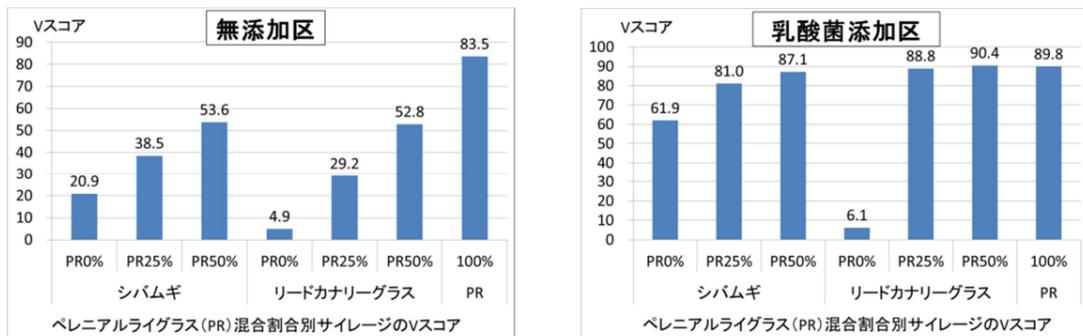
ペレニアルライグラスはこれまで主に道北・道央・道南地域において放牧利用されてきましたが、最近ではペレニアルライグラスの高い糖含量・栄養価に着目し、採草での混播利用が現場で試されつつあります。当社（雪印種苗）の試験成績と現場での優良事例を紹介します。採草利用でペレニアルライグラスを少量混播し、サイレージ・栄養価の改善にチャレンジしてみませんか？

## 1. ペレニアルライグラスは糖含量が高い

ペレニアルライグラスは糖含量（WSC：水溶性炭水化物）がチモシーやその他のイネ科草種よりも高いのが特徴です。細断されたペレニアルライグラスをギュッと手で握ってみるとわかりますが、他のイネ科草種よりもベタベタとする（糖含量が高い）感じがします。原料草の糖含量が高いとサイレージにおける乳酸発酵が促進され、サイレージが良質になります。

## 2. ペレニアルライグラス混播によるサイレージ発酵品質の改善

当社北海道研究農場においてシバムギ、リードカナリーグラスにペレニアルライグラスを加え、サイレージの発酵品質を調査しました。2草種ともにペレニアルライグラスを加えることによってサイレージ（無添加区、乳酸菌添加区）の発酵品質が向上しました。



## 3. ペレニアルライグラスは初期生育が優れ、再生力が優れる。追播に最適な草種です



## 4. 新播でペレニアルライグラスを混播する際の留意点

ペレニアルライグラスは初期生育が旺盛なため、新播で混播する際は混播量に注意する必要があります。根釦地域ではペレニアルライグラスは冬枯れするリスクがあるため、新播でチモシーにペレを混播する場合は1kg/ha以下に抑えたほうが良いでしょう。チモシー20kg/haにペレ1kg/ha混播する（計21kg）ことにより、ペレの植生割合が20%前後（チモシー80%）になります。

## 5. 追播する際の留意点

採草地に追播する場合、2番草を早め（お盆前後）に収穫し、収穫直後（お盆明け～8月下旬）に作溝型播種機（シードマチックなど）を利用して追播するのがベストです。追播量は20kg/ha前後が適します。ペレは越冬性がチモシーほど良くないため、播種の遅れにより冬枯れする危険性が増します。追播は遅くとも9月上旬までに済ませたほうが良いでしょう。採草地への追播は8月中～下旬がベストですが、難しい場合は早春（5月上旬前後など草地に入れるようになったらなるべく早めに）かフロストシーディングによる追播が適します。1番草後の追播については、播種後7月上旬～8月上旬は干ばつであることが多いため発芽・定着が安定しないことが多く、避けたほうが無難です。また、時期を問わずリードカナリーグラス草地への追播は避けてください。リードカナリーグラスは春～秋まで常に旺盛に生育・再生するため、ペレがリードとの競争に勝てずに定着しない事例が多いためです。

放牧地に追播する場合も追播時期については採草地と同様です。8月中～下旬、早春、フロストシーディングによる追播が適します。放牧地への追播量も採草地と同様に20kg/ha前後が適します。

## 6. 追播事例（大樹町）

シバムギが優占した草地へ2010年4月27日に作溝型播種機「グレートブレイン」でペレニアルライグラス「フレンド」を20kg/ha追播しました。

追播後のペレニアルライグラスの定着は良好でした。追播当年は株が小さいため目立ちませんでしたが、翌年には株が充実し、1番草のサイレージ発酵品質・飼料成分が改善されました。

